

## わたしらしく

### 小三

わたしは、三年生になって「ファーストペンギン」の話をたんぽの先生から聞きました。ゆうかなペンギンがいるからなかもエサが食べられる。

わたしは、その話を聞きながら思いました。「みんながやるなら」「あの子が手をあげたから」ではなく、「自分らしく」「わたし自身をしんじて」「チャンスをつかみたい。みんなの行動を見て動き出すのではなく、自分なりのゆう気を出してとびこむ、ファーストペンギンのようになりたいと思いました。わたしたちは、一人一人がちがった

こせいやとくちようをもっています。クラスを見ても、同じ三年生ですが、せの高さも、かみの長さもとく意な教科も、足の速さもちがいます。当たり前のように、考え方もちがいます。だから、じゆ業での話し合いが面白いです。「こんな考え方をするんだな。」と思うことができます。友だちに「Aさんの発表で、わたしの考えが深まったよ。」

と言われ、うれしくなりました。けれど、わたしたちの社会では時に、「みんないっしょ」「みんなと同じ」であることが「正しい・よいこと」とされることがあり、「みんなと同じ行動をしない人」「みんなとちがうことがある人」をなかも外れにすることがある

そうです。この話を聞いて「なんで。」と思いました。みんなちがうからおもしろいのに。考えがちがうのが人間で、だからこそ話し合って、考え合って、よりよいアイデアが生まれていくのに。なんだか悲しいな。おかしいな。

でも、こう考えていたときに、「あれ」と自分の心にとまることを思い出しました。二年生のおにごっこをしていて、タッチされたのにすぐまたおになっちゃってしまっ子を見て、「おにがタッチしたら、十秒数えてスタートするのはどうかな？」とていあんしたことがあります。でも友だちに、「おにごっこだから、そういうルール

はいらないよ。」

と強く言われました。そのとき、「なんでよ、ルールを足してもいいじゃない。」と少しいらだったのをおぼえています。その子とは、話し合いをせず、もやもやした気持ちのまま、おにごっこをつづけました。今、こうしてふりかえってみると、わたしも「みんな同じ考えだよ。」という気持ちで考えていたことに気づきました。だからこそ、ちがう考えを聞いたときに、「なるほど、そう思うんだね。」と受け入れることができず、「ちがうよ、考えを合わせよう。」と思ってしまうのです。「もつとその子の話をしっかり聞けばよかったな、話し合えば何か変わったのかな。」と思いました。

ファーストペンギンのようになりた  
いわたしのとなりの子はぐいぐい発表  
はしないけれど、しっかり自分の意見  
をもっているすてきな子で、わたしの  
前の席の子は、たくさん本を読む物知  
りな子です。みんなすてきな友だちで  
す。わたしのよさは「クラスでどうど  
うと発表ができること」だと思ってい  
たけれど、道とくのじゅ業で、  
「友だちを大切にしてくれるところが  
あなたによいところだね。」  
と教えてくれる友だちがいました。わ  
たしの知らない「わたしのよさ」を見  
つけてくれた友だちは、わたしとちが  
うからこそよさが見つかったのかなと  
思います。

「自分らしさ」は十人十色です。わた

したちは「自分らしさ」と「自分勝  
手」をしつかりと分けて、友だちを大  
切にしていくことが大事です。いろん  
な考えをもつわたしたちは、相手のこ  
とを思いやって話したり、考えて行動  
したりすることで、よいクラス、よい  
社会、よい国、よい世界につながりま  
す。これからわたしは多くの人と出会  
います。その出会いの中で、おたがい  
のつながりやそんざいを大切にしてく  
ごしていきたいと思います。わたしのよう  
に「一人一人がとくべつなんだ」と思え  
る人がふえ、世界中の人びとが「わた  
しらしく」生きることができまますよう  
に。